(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-246019
(P2012-246019A)
(43)公開日　平成24年12月13日(2012.12.13)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 25/20	(2006.01)	B65D	25/20	W	3E060
B65D 5/72	(2006.01)	B65D	5/72	A	3E062
B65D 25/52	(2006.01)	B65D	25/52	E	

審査請求 未請求　請求項の数 8　ＯＬ　（全 13 頁）

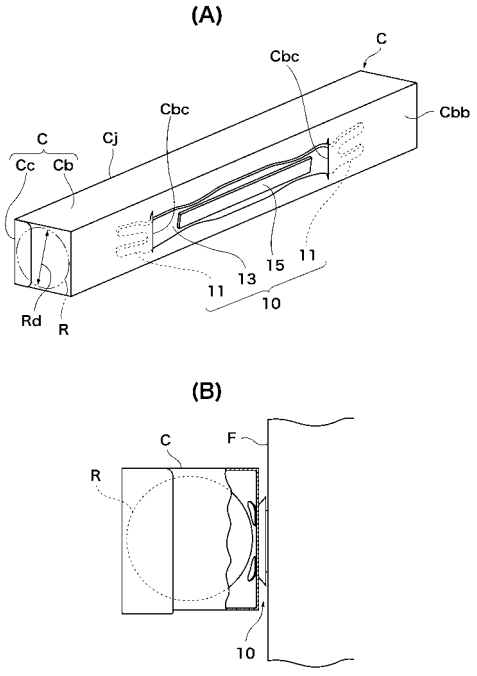
(21)出願番号　特願2011-119627 (P2011-119627)
(22)出願日　平成23年5月27日 (2011.5.27)

(71)出願人　000001100
株式会社クレハ
東京都中央区日本橋浜町三丁目３番２号
(74)代理人　100097320
弁理士　宮川　貞二
(74)代理人　100131820
弁理士　金井　俊幸
(74)代理人　100100398
弁理士　柴田　茂夫
(74)代理人　100155192
弁理士　金子　美代子
(72)発明者　関　孝幸
東京都中央区日本橋浜町三丁目３番２号
株式会社クレハ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】カートン掛け具及びカートン

(57)【要約】
【課題】巻回体の損傷を回避することが可能なカートン掛け具及びカートンを提供する。
【解決手段】カートン掛け具１０は、巻回体Ｒが収容されたカートンＣに装着されてカートンＣを面Ｆに掛けることを可能にする細長いものである。カートン掛け具１０は、細長の両端に位置し、カートンＣに装着されたときにカートンＣに差し込まれる部分である先端部１１と、両側の先端部１１の間に位置し、カートンＣに装着されたときにカートンＣの外側に露出する部分である中央部１３とを備える。中央部１３は、面Ｆとつながる掛け部１５が設けられている。先端部１１は、２分割の先割れ状に形成されている。先端部１１が２分割の先割れ状に形成されているので、カートン掛け具１０が差し込まれるカートンＣの面Ｃｂｂに最も近い巻回体Ｒの部分が１本の線状でカートン掛け具１０に接触することを回避することができ、巻回体Ｒの損傷を回避することが可能になる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
長尺物が巻かれた巻回体が収容されたカートンに装着されて前記カートンを面に掛けることを可能にする細長いカートン掛け具であって；
前記細長の両端に位置し、前記カートンに装着されたときに前記カートンに差し込まれる部分である先端部と；
両側の前記先端部の間に位置し、前記カートンに装着されたときに前記カートンの外側に露出する部分であって、前記面とつながる掛け部が設けられた中央部とを備え；
前記先端部が、２分割の先割れ状に形成された；
カートン掛け具。
【請求項２】
前記先端部が、前記２分割の先割れ状の間の隙間が前記巻回体の軸直角断面における直径の０．１倍以上に形成された；
請求項１に記載のカートン掛け具。
【請求項３】
前記先端部が、前記細長の長手方向に直交する断面において、前記カートンに差し込まれたときに前記巻回体に対向する側が、前記巻回体の軸直角断面における円周に沿った曲面に形成された；
請求項１又は請求項２に記載のカートン掛け具。
【請求項４】
前記中央部及び前記先端部が、前記２分割の先割れ状が離れる方向を幅とする板状に形成され；
前記中央部が、前記細長の長手方向における前記中央部の中心と前記先端部との境界との間に前記幅方向に凹んだ窪みが形成された；
請求項１乃至請求項３のいずれか１項に記載のカートン掛け具。
【請求項５】
前記中央部及び前記先端部が、前記２分割の先割れ状が離れる方向を幅とする板状に形成され；
前記掛け部が前記中央部の一方の面に設けられ；
前記中央部が、前記掛け部が設けられた一方の面の幅よりも、前記一方の面の裏面である他方の面の幅の方が狭く形成された；
請求項１乃至請求項４のいずれか１項に記載のカートン掛け具。
【請求項６】
前記先端部が、前記カートンに差し込まれたときに前記巻回体に対向する側に先端が反って形成された；
請求項１乃至請求項５のいずれか１項に記載のカートン掛け具。
【請求項７】
前記掛け部がマグネットで構成された；
請求項１乃至請求項６のいずれか１項に記載のカートン掛け具。
【請求項８】
請求項１乃至請求項７のいずれか１項に記載のカートン掛け具が装着される、長尺物が巻かれた巻回体が収容されるカートンであって；
前記カートン掛け具が装着される装着面に、前記先端部の２分割の先割れの各々が個別に差し込まれる個別切り込みが形成され；
前記個別切り込みが、前記カートン掛け具が装着されたときの、前記カートン掛け具の先端側に突き出た略半円弧状で、前記略半円弧状の頂点が前記２分割の先割れが離れる方に偏って、かつ、前記装着面の前記巻回体が最も近づく部分をまたぐように形成された；
カートン。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】

【０００１】
本発明はカートン掛け具及びカートンに関し、特に巻回体の損傷を回避することが可能なカートン掛け具及びこのカートン掛け具の装着に適したカートンに関する。
【背景技術】
【０００２】
ティッシュボックスを冷蔵庫などの被着体に磁力で取り付けることができるホルダが知られている。このようなホルダのうち、小型で取り付け作業がしやすく安定した取り付け強度も得られるホルダとして、略細板状に形成された本体の表面に設けられた凹部に板状の磁石が配設されていると共に、該本体の長手方向の両側に裏面方向に向かって傾斜したガイド部がそれぞれ形成されているティッシュボックス用ホルダがある（例えば、特許文献１参照。）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００２－３６９７６７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
上述のティッシュボックス以外にも、ラップフィルムやクッキングシート等の長尺物を巻回した巻回体が収容されたカートンを、冷蔵庫等に取り付けることができれば便利である。しかしながら、上述のホルダを巻回体が収容されたカートンに転用すると、巻回体のホルダに最も近い部分が１本の線状でホルダに接触することとなり、巻回体を損傷するおそれがある。
【０００５】
本発明は上述の課題に鑑み、巻回体の損傷を回避することが可能なカートン掛け具及びこのカートン掛け具の装着に適したカートンを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記目的を達成するために、本発明の第１の態様に係るカートン掛け具は、例えば図１に示すように、長尺物が巻かれた巻回体Ｒが収容されたカートンＣに装着されてカートンＣを面Ｆに掛けることを可能にする細長いカートン掛け具１０であって；細長の両端に位置し、カートンＣに装着されたときにカートンＣに差し込まれる部分である先端部１１と；両側の先端部１１の間に位置し、カートンＣに装着されたときにカートンＣの外側に露出する部分であって、面Ｆとつながる掛け部１５が設けられた中央部１３とを備え；先端部１１が、２分割の先割れ状に形成されている。
【０００７】
このように構成すると、先端部が２分割の先割れ状に形成されているので、カートン掛け具が差し込まれるカートンの面に最も近い巻回体の部分が１本の線状でカートン掛け具に接触することを回避することができ、巻回体の損傷を回避することが可能になる。
【０００８】
また、本発明の第２の態様に係るカートン掛け具は、例えば図２（Ａ）に示すように、上記本発明の第１の態様に係るカートン掛け具１０において、先端部１１が、２分割の先割れ状の間の隙間１１ｓが巻回体Ｒ（例えば図１（Ａ）参照）の軸直角断面における直径Ｒｄ（例えば図１（Ａ）参照）の０．１倍以上に形成されている。
【０００９】
このように構成すると、カートン掛け具による巻回体の損傷を回避する確率を上げることができる。
【００１０】
また、本発明の第３の態様に係るカートン掛け具は、例えば図３（Ａ）に示すように、上記本発明の第１の態様又は第２の態様に係るカートン掛け具において、先端部１１が、

細長の長手方向に直交する断面において、カートンＣ（例えば図１（Ａ）参照）に差し込まれたときに巻回体Ｒに対向する側１１ａが、巻回体Ｒの軸直角断面における円周に沿った曲面に形成されている。

【００１１】

このように構成すると、カートン内における巻回体の位置をより安定させることができる。

【００１２】

また、本発明の第４の態様に係るカートン掛け具は、例えば図２（Ａ）に示すように、上記本発明の第１の態様乃至第３の態様のいずれか１つの態様に係るカートン掛け具１０において、中央部１３及び先端部１１が、２分割の先割れ状が離れる方向を幅１０Ｗとする板状に形成され；中央部１３が、細長の長手方向における中央部１３の中心ＶＬと先端部１１との境界との間に幅方向に凹んだ窪み１２が形成されている。

【００１３】

このように構成すると、中央部に窪みが形成されているので、手に馴染んで持ちやすくなる。

【００１４】

また、本発明の第５の態様に係るカートン掛け具は、例えば図２（Ａ）及び図３（Ｂ）に示すように、上記本発明の第１の態様乃至第４の態様のいずれか１つの態様に係るカートン掛け具１０において、中央部１３及び先端部１１が、２分割の先割れ状が離れる方向を幅１０Ｗとする板状に形成され；掛け部１５が中央部１３の一方の面１３ａに設けられ；中央部１３が、掛け部１５が設けられた一方の面１３ａの幅１３Ｗａよりも、一方の面１３ａの裏面である他方の面１３ｂの幅１３Ｗｂの方が狭く形成されている。

【００１５】

このように構成すると、カートン掛け具が装着されたカートンとカートン掛け具との間に指が掛かりやすくなり、カートン掛け具をカートンから外すのが容易になる。

【００１６】

また、本発明の第６の態様に係るカートン掛け具は、例えば図２（Ｂ）に示すように、上記本発明の第１の態様乃至第５の態様のいずれか１つの態様に係るカートン掛け具において、先端部１１が、カートンＣ（例えば図１（Ａ）参照）に差し込まれたときに巻回体Ｒ（例えば図１（Ａ）参照）に対向する側に先端が反って形成されている。

【００１７】

このように構成すると、先端部をカートンに突き刺しやすくすることができる。

【００１８】

また、本発明の第７の態様に係るカートン掛け具は、例えば図１に示すように、上記本発明の第１の態様乃至第６の態様のいずれか１つの態様に係るカートン掛け具１０において、掛け部１５がマグネットで構成されている。

【００１９】

このように構成すると、強磁性体の面に容易に掛けることができる。

【００２０】

本発明の第８の態様に係るカートンは、例えば図６（Ａ）及び図６（Ｂ）に示すように、上記本発明の第１の態様乃至第７の態様のいずれか１つの態様に係るカートン掛け具１０が装着される、長尺物が巻かれた巻回体Ｒが収容されるカートンＣｎであって；カートン掛け具１０が装着される装着面Ｃｂｂに、先端部１１の２分割の先割れの各々が個別に差し込まれる個別切り込みＣｂｒが形成され；個別切り込みＣｂｒが、カートン掛け具１０が装着されたときの、カートン掛け具１０の先端側に突き出た略半円弧状で、略半円弧状の頂点Ｃｂｒｔが２分割の先割れが離れる方に偏って、かつ、装着面Ｃｂｂの巻回体Ｒが最も近づく部分Ｃｂｂｃをまたぐように形成されている。

【００２１】

このように構成すると、カートン掛け具が装着されたときに、個別切り込みの内側の部分が巻回体と強く接触するのを防ぎつつ、カートンの中で巻回体の動きを安定させるよう

に支持することができる。また、個別切り込みが略半円弧状に形成されているので、個別切り込みの内側の部分が巻回体とカートン掛け具との間に介在することとなって、カートン掛け具が巻回体に直接接触することを防いで巻回体の損傷を回避することができ、先端部の２分割の先割れの各々を、個別切り込みからカートン内に容易に挿入することができると共に、カートン掛け具のカートンへの装着後の個別切り込みの根元からカートンが損傷することを低減することができる。

【発明の効果】

【００２２】

本発明によれば、先端部が２分割の先割れ状に形成されているので、カートン掛け具が差し込まれるカートンの面に最も近い巻回体の部分が１本の線状でカートン掛け具に接触することを回避することができ、巻回体の損傷を回避することが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【００２３】

【図１】（Ａ）は本発明の実施の形態に係るカートン掛け具をカートンに装着した状態を示す斜視図、（Ｂ）は本発明の実施の形態に係るカートン掛け具を装着したカートンを面に掛けている状態を示す側面図である。

【図２】（Ａ）は本発明の実施の形態に係るカートン掛け具の平面図、（Ｂ）は本発明の実施の形態に係るカートン掛け具の部分側面図である。

【図３】（Ａ）は図２（Ａ）におけるIIIＡ－IIIＡ矢視断面図、（Ｂ）は図２（Ａ）におけるIIIＢ－IIIＢ矢視断面図である。

【図４】本発明の実施の形態の変形例に係るカートン掛け具を示す斜視図である。

【図５】本発明の実施の形態に係るカートン掛け具を別のカートンに装着した状態を示す斜視図である。

【図６】（Ａ）は本発明の実施の形態に係るカートン掛け具が装着されるカートンの部分底面図、（Ｂ）は側面断面図、（Ｃ）は本発明の実施の形態に係るカートン掛け具が差し込まれる切り込みの変形例を示す部分底面図である。

【発明を実施するための形態】

【００２４】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。なお、各図において互いに同一又は相当する部材には同一あるいは類似の符号を付し、重複した説明は省略する。

【００２５】

図１は、本発明の実施の形態に係るカートン掛け具１０（以下、単に「掛け具１０」という。）をカートンＣに装着した状態を示す斜視図、（Ｂ）は掛け具１０を装着したカートンＣを面Ｆに掛けている状態を示す側面図である。掛け具１０は、合成樹脂製のラップフィルムが巻かれて形成された巻回体としてのロールＲが収容されているカートンＣに装着され、カートンＣを冷蔵庫の表面Ｆなどの面に掛けることができるようにするものである。ここで「面に掛ける」とは、ある物体（本実施の形態ではカートンＣ）の一部分を別の物体（本実施の形態では冷蔵庫）の表面につながらせて、ある物体（カートンＣ）の重みを別の物体（冷蔵庫）にゆだねることを意味している。

【００２６】

カートンＣは、紙製の箱であり、細長い直方体の箱の一面が開口となった本体部Ｃｂと、開口まわりの本体部Ｃｂを覆うようにして開口を塞ぐ蓋部Ｃｃとから構成されている。蓋部Ｃｃは、本体部Ｃｂに対して蝶番辺Ｃｊで回動可能に連接されている。本体部Ｃｂの開口に対向する面である底面Ｃｂｂには、掛け具１０を差し込むための切り込みＣｂｃが形成されている。切り込みＣｂｃは、底面Ｃｂｂの長手方向に対して直交する方向に掛け具１０の幅よりもやや大きい長さで延びるように、かつ、後述する所定の間隔を空けて２つ形成されている。

【００２７】

図２（Ａ）は掛け具１０の平面図、図２（Ｂ）は掛け具１０の部分側面図である。掛け具１０は、全体として細長い外観を呈しており、長手方向に直交する仮想直線ＶＬを軸と

する線対称に形成されている。ここで「細長い」というのは、縦横の長さが異なることを意味している。図２（Ｂ）の部分側面図は、仮想直線ＶＬから一方の末端までの、掛け具１０の半分を示している。掛け具１０は、カートンＣに装着するのを阻害しない程度の可撓性を有し、弾性変形する材料で形成されている。掛け具１０は、典型的には、一方の先端部１１を、中央部１３の一部も一旦カートンＣ内に入るように一方の切り込みＣｂｃ（図１（Ａ）参照）からカートンＣに差し込んだときに、他方の先端部１１を他方の切り込みＣｂｃから入れることができるように曲げることができ、外力を除いたときに元の形状に戻るような弾性を有する材料で形成されている。あるいは、人間の腕力によって、長手方向の両端が、カートンＣの底面Ｃｂｂに形成された２つの切り込みＣｂｃの間隔よりも短くなるように曲げることができ、外力を除いたときに元の形状に戻るような弾性を有する材料で形成されていてもよい。掛け具１０は、平面における輪郭が、装着されるカートンＣの面（本実施の形態では底面Ｃｂｂ）からはみ出ない大きさに形成されている。掛け具１０の幅１０Ｗ（最大となる部分の幅）は、掛け具１０の長さ１０Ｌ（最大となる部分の長さ）の概ね０．０７～０．３倍、本実施の形態では０．１２倍に形成されている。

【００２８】

掛け具１０は、先端部１１と、中央部１３とを備えている。先端部１１は、掛け具１０の長手方向の両端に位置しており、掛け具１０がカートンＣに装着されたときにカートンＣの内部に入る部分である。中央部１３は、先端部１１以外の部分であって、両側の先端部１１の間に位置し、掛け具１０がカートンＣに装着されたときにカートンＣの外側に露出する部分である。上述した２つの切り込みＣｂｃ（図１（Ａ）参照）の所定の間隔は、中央部１３の長さ１３Ｌに等しくなる。掛け具１０の長手方向における１つあたりの先端部１１の長さ１１Ｌは、カートンＣに装着した掛け具１０が脱落してしまうほど短くなく、掛け具１０のカートンＣへの装着を妨げるほど長すぎることがないようにする観点から決定される。先端部１１の長さ１１Ｌは、掛け具１０の長さ１０Ｌの概ね０．０３～０．１５倍、好ましくは０．０８～０．１２倍とするとよく、本実施の形態では、０．１０倍となっている。

【００２９】

中央部１３には、一方の面１３ａ（以下「中央表面１３ａ」という。）に掛け部としてのマグネット１５が取り付けられている。本実施の形態では、中央表面１３ａの大部分（７～８割）を占める面積に板状のマグネット１５が取り付けられているが、マグネット１５は、掛け具１０を装着したカートンＣを面Ｆ（図１（Ｂ）参照）に掛けたときにカートンＣを含めた自重で落下しない程度の磁力を有する面積があれば足り、また、１枚の板状以外に複数に分割されていてもよい。

【００３０】

図２（Ｂ）の部分側面図を、図２（Ａ）の平面図と併せて参照すると明らかなように、掛け具１０は板状に形成されている。掛け具１０は、中央部１３の厚さが、掛け具１０の幅１０Ｗの概ね０．０５～０．３倍、好ましくは０．１～０．３倍とするとよく、本実施の形態では０．２倍程度に形成されている。先端部１１の厚さは、中央部１３の厚さと同じでもよいが、概ね中央部１３の厚さの０．３～０．９倍、好ましくは０．７～０．９倍とするとよく、典型的には０．８倍程度に形成されている。掛け具１０は、中央表面１３ａと同じ側の先端部１１の面（以下「先端表面１１ａ」という。）と、中央表面１３ａの裏側である中央裏面１３ｂ（他方の面に相当）とが同一の仮想平面上に存在するように、厚さ方向に曲げ加工されている。このように構成されていることで、掛け具１０がカートンＣの底面Ｃｂｂに装着されたときに、先端表面１１ａが底面Ｃｂｂの内側に、中央裏面１３ｂが底面Ｃｂｂの外側に、それぞれ好適に接することとなり、掛け具１０を底面Ｃｂｂに適切に装着することができる。すなわち、掛け具１０がカートンＣの底面Ｃｂｂに装着されたときに、底面Ｃｂｂに無理な力が作用したり、装着が不完全であったりすることがない。また、側面視において（図２（Ｂ）参照）、先端部１１の先端が、先端表面１１ａの裏側である先端裏面１１ｂ側に反っている。この構成により、掛け具１０をカートンＣに突き刺しやすくなる。なお、先端裏面１１ｂは、先端部１１がカートンＣに差し込ま

れたときにロールＲに対向する面である。

【００３１】

先端部１１は、先端が２つに分かれている。換言すれば、２分割の先割れ状に形成されている。詳細には、掛け具１０の先端から長手方向に延びる隙間１１ｓが、幅１０Ｗの中央に形成されている。隙間１１ｓは、先端裏面１１ｂの高さが、厚さ方向に見て中央部１３の中心における中央裏面１３ｂの高さと等しくなる位置まで、長手方向に延びている。換言すれば、掛け具１０がカートンＣに差し込まれたときにカートンＣの内部に存在する部分の長さにわたって隙間１１ｓが形成されている。このように構成されていることで、カートンＣに収容されているロールＲの底面Ｃｂｂに最も近い部分が、１本の線状で掛け具１０に接触することを回避することができ、ロールＲの表面のラップフィルムが掛け具１０によって損傷する（破られる）ことを回避することができる。

【００３２】

隙間１１ｓの幅は、ロールＲの軸直角断面における直径Ｒｄ（図１（Ａ）参照）の０．１倍以上とすると、掛け具１０をカートンＣに差し込んだときに、接触によって掛け具１０がロールＲに及ぼす力を低減することができるため、好適である。なお、ロールＲの直径Ｒｄは、ラップフィルムの使用量に応じて小さくなっていくが、ここで隙間１１ｓの幅を決める基準としている直径Ｒｄは、未使用時のロールＲの直径Ｒｄとする。隙間１１ｓの幅の上限は、先端部１１の幅がカートンＣの底面Ｃｂｂの幅未満であることを考慮すると、ロールＲの直径Ｒｄ未満であることが多くなり、典型的にはロールＲの直径Ｒｄの０．６倍以下となる。隙間１１ｓの幅をロールＲの直径Ｒｄの０．６倍以下とすると、隙間１１ｓの両脇の先割れ状の先端でロールＲを挟むように支えることができ、カートンＣ内におけるロールＲの位置を安定させることができる。あるいは、カートンＣ内のロールＲが掛け具１０に接触しないように（先端部１１の先割れ部分がカートンＣとロールＲとのデッドスペースに位置するように）、隙間１１ｓの幅を形成してもよい。カートンＣに装着された掛け具１０にロールＲが接触するか否かは、掛け具１０の厚さの影響を受ける。本実施の形態では、隙間１１ｓの幅が、ロールＲの直径Ｒｄの概ね０．３倍に形成されている。

【００３３】

中央部１３は、掛け具１０の長手方向において、先端部１１との境界と、中心（仮想直線ＶＬが通る位置）との間に、幅１０Ｗの方向に凹んだ窪み１２が形成されている。換言すれば、板状の掛け具１０の側方が凹んで窪み１２が形成されている。窪み１２は、先端部１１との境界寄りに形成されており、本実施の形態では、掛け具１０の先端から掛け具１０の長さ１０Ｌの概ね０．３倍の距離に窪み１２の谷（底）が来るように形成されている。この構成により、掛け具１０を握ったときに手に馴染んで持ちやすくなる。

【００３４】

図３（Ａ）は、図２（Ａ）におけるIIIＡ－IIIＡ矢視断面図である。図３（Ａ）に示すように、先端部１１は、掛け具１０の長手方向に直交する断面において、先端表面１１ａが曲面に形成されている。先端表面１１ａの曲面は、先端部１１がカートンＣに差し込まれたときに対向するロールＲの軸直角断面における円周に沿った曲面である。ここで、先端表面１１ａの曲率は、ロールＲの円周の曲率と異なっていてもよく、典型的にはロールＲの円周の曲率よりも小さく形成されている。先端表面１１ａが上述のような曲面に形成されていることにより、カートンＣ内におけるロールＲの位置をより安定させることができる。

【００３５】

図３（Ｂ）は、図２（Ａ）におけるIIIＢ－IIIＢ矢視断面図である。図３（Ｂ）に示すように、中央部１３は、中央表面１３ａの幅である中央表面幅１３Ｗａよりも、中央裏面１３ｂの幅である中央裏面幅１３Ｗｂの方が狭くなっている。換言すれば、中央部１３の側面が、掛け具１０の長手方向に直交する断面において、面取りしたように斜めに形成されている。このように構成されていることで、掛け具１０がカートンＣに装着されたときに、中央部１３の側面とカートンＣの底面Ｃｂｂとの間に、両者のなす角を鋭角とする空

間Ｓが形成されることとなり、掛け具１０をカートンＣから外す際に空間Ｓに指先を入れることで掛け具１０に指先が掛かって掛け具１０が外しやすくなる。外した掛け具１０は、別のカートンＣに装着して繰り返し利用することができる。

【００３６】

次に図４を参照して、本発明の実施の形態の変形例に係るカートン掛け具１０Ａ（以下単に「掛け具１０Ａ」という。）を説明する。図４は、掛け具１０Ａを示す斜視図である。以下、掛け具１０Ａの、掛け具１０（図２、３参照）との相違点を説明する。以下に述べる相違点以外の掛け具１０Ａの構成は、掛け具１０と同じである。以下の説明において、掛け具１０の構成に言及しているときは、適宜図２及び図３を参照することとする。掛け具１０Ａは、掛け部が、マグネット１５ではなく、フック１６ｆを含むフック部材１６になっている。

【００３７】

フック部材１６は、フック１６ｆと、プレート１６ｐとを有している。フック１６ｆは、比較的小径（概ね直径１．５～２．５ｍｍ程度で、本実施の形態では２．０ｍｍ）の棒状部材の一方の端部をＵ字状に曲げて、全体としてＪ字状に形成されている。フック１６ｆのＵ字状部分は、細い棒状部材を格子状に組み合わせて形成されたハンガー（メッシュハンガー）に掛けるのに適した大きさで形成するとよく、例えば曲率半径が、フック１６ｆを形成する棒状部材の直径と同程度の長さとなるように形成してもよい。フック１６ｆの高さ（垂直に立てたときの最高点までの高さ）は、典型的には、中央表面幅１３Ｗａよりも大きく、カートンＣの高さ（あるいはロールＲの直径Ｒｄ）以下となっている。

【００３８】

プレート１６ｐは、典型的には、マグネット１５と同じ形状及び大きさで、可撓性を有する合成樹脂で形成されている。プレート１６ｐは、掛け具１０におけるマグネット１５の取り付けと同じ要領で、中央表面１３ａに取り付けられている。フック１６ｆは、Ｕ字状に曲げられている側とは反対側の端部で、線状に、プレート１６ｐに固着されている。このとき、フック１６ｆは、Ｕ字状に曲がっている先端が、中央裏面１３ｂと反対側に向かうように曲がる方向で固着されている。フック１６ｆは、２つ以上固着されているのが好ましい。本実施の形態では、２つのフック１６ｆが、それぞれ、掛け具１０Ａの長手方向中央からの長手方向における距離が等しくなるように間隔を空けて、プレート１６ｐに固着されている。

【００３９】

上述のように構成された掛け具１０Ａは、カートンＣに装着されることで、メッシュハンガーで構成された面に掛けることが可能になる。このとき、フック１６ｆのＵ字状の部分から、このＵ字状の反対側にフック１６ｆを辿った先のカートンＣの底面Ｃｂｂの端部までの距離が、メッシュハンガーの格子よりも大きくなるようにすると、カートンＣを安定して面（メッシュハンガー）に掛けることができるため好ましい。なお、掛け部は、マグネット１５やフック部材１６の他に、面ファスナー等、面の状態に応じて面に掛けるのに適した部材を用いてもよい。

【００４０】

以上の説明では、カートンＣに形成されている、掛け具１０を差し込むための切り込みＣｂｃが、掛け具１０の幅１０Ｗよりもやや大きい長さであるとしたが、以下のように形成されていてもよい。

【００４１】

図５は、カートンＣ（図１（Ａ）参照）とは異なるタイプのカートンＣｍに掛け具１０を装着した状態を示す斜視図である。カートンＣｍは、掛け具１０を装着するための切り込みＣｂｆが、先端部１１の２分割の先割れの各々に個別に対応するように、一方につき２箇所の合計４箇所で形成されている。１つあたりの切り込みＣｂｆの長さは、先割れの一方の幅よりもやや大きく、掛け具１０の幅１０Ｗの半分よりも小さくなっている。このように構成されたカートンＣｍに掛け具１０を装着すると、装着する際に先端部１１以外がカートンＣｍの中に入り込むことがないため、掛け具１０を差し込みすぎることがなく

なってロールＲの損傷をより抑制することができる。

【００４２】

あるいは図６（Ａ）及び図６（Ｂ）に示すようにカートンＣｎを構成してもよい。図６（Ａ）はカートンＣｎの部分底面図、図６（Ｂ）はカートンＣｎの側面断面図である。カートンＣｎは、掛け具１０が装着される面である装着面としての底面Ｃｂｂに、掛け具１０の先端部１１の２分割の先割れの各々に個別に対応する切り込みである個別切り込みＣｂｒが形成されている点でカートンＣｍ（図５参照）に類似しているが、カートンＣｍ（図５参照）の切り込みＣｂｆが直線状であるのに対し、カートンＣｎの個別切り込みＣｂｒが略半円弧状を呈している点で相違している。個別切り込みＣｂｒとすると、切り込みＣｂｃ（図１（Ａ）参照）よりも小さく形成できるので、底面Ｃｂｂの強度の低下を抑制することができる。また、個別切り込みＣｂｒが略半円弧状に形成されているので、切り込みの幅を先端部１１の先割れの一方の幅に近づけても先端部１１の差し込みを妨げることがなく、また、掛け具１０を差し込んだときに個別切り込みＣｂｒの根元から裂けるようにカートンＣｎが損傷することを低減することができる。ここで、個別切り込みＣｂｒが略半円弧状というのは、以下に説明するように、完全な半円ではなく、半円を変形したものであることを意味している。

【００４３】

各個別切り込みＣｂｒは、底面Ｃｂｂの長手方向外側に凸になる向きに形成されている。このとき、略半円弧の両端を結ぶ仮想線（半円の直径に相当）が、底面Ｃｂｂの短辺に対して平行になっている。一対の個別切り込みＣｂｒは、底面Ｃｂｂの幅方向の配置が、ロールＲが最も近づく底面Ｃｂｂの部分（以下「底面中心帯Ｃｂｂｃ」という。）をまたぐようになっている。ロールＲは細長い円筒状であるので、底面中心帯Ｃｂｂｃも底面Ｃｂｂの長手方向に沿って延びることとなる。通常、ロールＲはカートンＣｎの中であそびがあるために底面Ｃｂｂの幅方向に動く余地がある。このため、底面中心帯Ｃｂｂｃも、ロールＲの、カートンＣｎ内における幅方向の移動に応じた分だけ太くなる。換言すれば、底面中心帯Ｃｂｂｃは、掛け具１０が装着されていない場合の、底面Ｃｂｂにおけるロールが接触しうる領域である。カートンＣｎ内でのロールＲのあそびが少なければ、底面中心帯Ｃｂｂｃは線状になる。底面中心帯Ｃｂｂｃを規定する際のロールＲの大きさ（径）は、未使用時のロールＲを基準にすればよい。

【００４４】

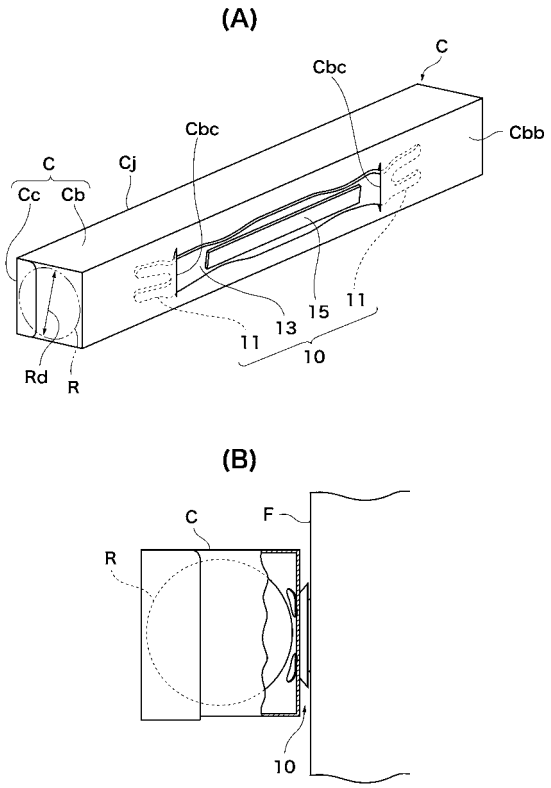
また、個別切り込みＣｂｒは、略半円弧の頂点Ｃｂｒｔが、半円弧の中心を通り底面Ｃｂｂの長辺に平行な基準線Ｌｒよりも、底面Ｃｂｂの幅方向の外側に位置するように形成されている。一対の個別切り込みＣｂｒの各頂点Ｃｂｒｔがそれぞれ外側に寄っているので、両頂点Ｃｂｒｔが相互に離れる方に偏っていることとなる。頂点Ｃｂｒｔの偏りは、底面Ｃｂｂの幅方向において、個別切り込みＣｂｒの最も外側の点から半円弧の直径の１／５～２／５程度の位置に頂点Ｃｂｒｔが来るようにするとよい。また、一対の個別切り込みＣｂｒは、これらの間にある底面Ｃｂｂの部分の破損を回避する観点から、相互に最も近い点が８ｍｍ以上離れていることが好ましい。なお、図６（Ａ）では、掛け具１０の本来２つある先端部１１の一方に対応する個別切り込みＣｂｒを示しているが、先端部１１の他方に対応する側も、同じ要領で線対称に現れる個別切り込みＣｂｒが形成されている。

【００４５】

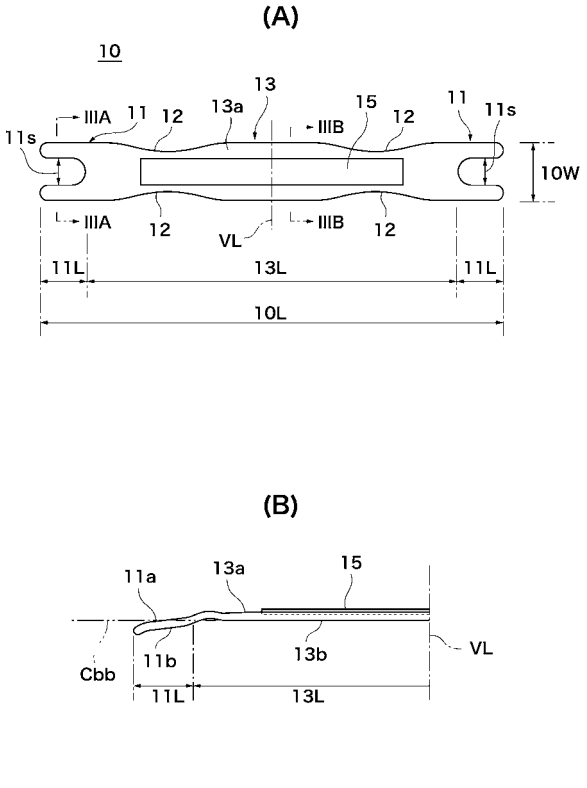
上述のように構成されたカートンＣｎでは、掛け具１０が装着されると、個別切り込みＣｂｒの内側の部分である折り込み片Ｃｂｒｐが、半円弧の直径を折り曲げ線として、カートンＣｎ内に入り込むこととなる（図６（Ｂ）参照）。このとき、頂点Ｃｂｒｔが相互に離れる方向に偏っているので、折り込み片Ｃｂｒｐが折り曲げられたときに外側に開くようになり、ロールＲへの干渉が低減されることとなる。さらに、折り込み片ＣｂｒｐがカートンＣｎ内に入り込むことによって、ロールＲと掛け具１０との間に折り込み片Ｃｂｒｐが介在することとなり、掛け具１０がロールＲに直接接触することが低減され、もって、ロールＲの損傷防止に寄与することとなる。

【００４６】
次に、図６（Ｃ）には、別の例のカートンＣｘの部分底面図を示している。カートンＣｘは、掛け具１０を差し込む切り込みＣｂｄが、カートンＣｎ（図６（Ａ）、（Ｂ）参照）のように個別切り込みＣｂｒではなく、底面Ｃｂｂの長手方向に対して直交する方向に掛け具１０の幅よりもやや大きい長さを直径とした半円弧状に形成されている。切り込みＣｂｄは、底面Ｃｂｂの長手方向外側に凸になる向きに形成されている。なお、図６（Ｃ）では、掛け具１０の本来２つある先端部１１の一方に対応する切り込みＣｂｄを示しているが、先端部１１の他方に対応する側も、同じ要領で線対称に現れる切り込みＣｂｄが形成されている。このように構成されたカートンＣｘでは、掛け具１０を装着するときに、一方の先端部１１を、中央部１３の一部も一旦カートンＣｘ内に入るように一方の切り込みＣｂｄからカートンＣｘに差し込んだ後、他方の先端部１１を他方の切り込みＣｂｄに差し込んでから、最初に入れすぎた中央部１３の一部がカートンＣｘの外に出るように調節することができ、掛け具１０の装着が行いやすくなる。それでいて、掛け具１０を装着したときに、切り込みＣｂｄの内側の片Ｃｂｄｐが、掛け具１０とロールＲとの間に介在することとなり、ロールＲの損傷低減に寄与することとなる。
【００４７】
以上の説明では、長尺物がラップフィルムであるとしたが、クッキングシートやアルミホイル等の、ラップフィルム以外の薄膜状のものであってもよい。
【００４８】
以上で説明した切り込みＣｂｃ、Ｃｂｆ、Ｃｂｄ、及び個別切り込みＣｂｒは、あらかじめ完全に切断されたもののほか、ミシン目であってもよい。また、以上の説明では、掛け具１０を差し込むための切り込みＣｂｃ、Ｃｂｆ、Ｃｂｄ、及び個別切り込みＣｂｒが、底面Ｃｂｂに形成されているとしたが、底面Ｃｂｂ以外の、例えば背面（蝶番辺Ｃｊを含む本体部Ｃｂの面）に形成されていてもよい。
【符号の説明】
【００４９】
１０、１０Ａ　カートン掛け具
１０Ｗ　幅
１１　先端部
１１ａ　先端表面
１１ｓ　隙間
１３　中央部
１３ａ　中央表面
１３ｂ　中央裏面
１３Ｗａ　一方面幅
１３Ｗｂ　他方面幅
１５　マグネット
Ｃ、Ｃｍ、Ｃｎ　カートン
Ｃｂｂ　底面
Ｃｂｂｃ　底面中心帯
Ｃｂｒ　個別切り込み
Ｃｂｒｔ　頂点
Ｆ　面
Ｒ　ロール
Ｒｄ　ロール直径
ＶＬ　仮想直線

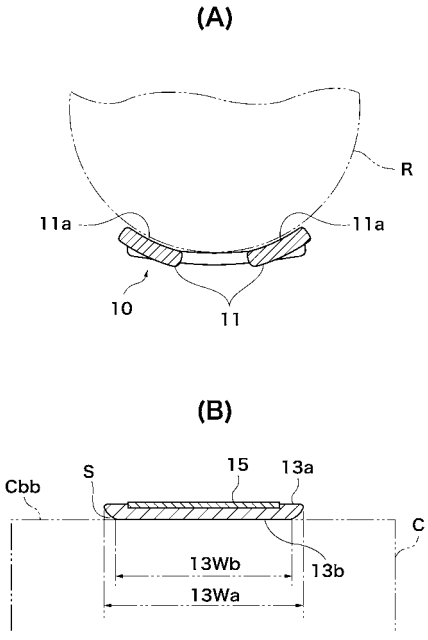
【図１】


(A)
C
Cbc
Cbc
Cbb
C
Cc
Cb
Cj
11
13
15
11
10
Rd
R
(B)
C
F
R
10

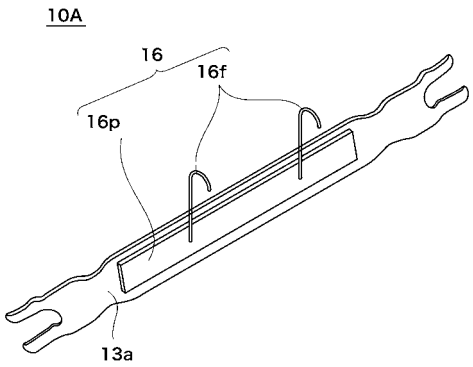
【図２】


(A)
10
13
IIIA
11
12
13a
IIIB
15
12
11
11s
11s
10W
IIIA
12
VL
IIIB
12
11L
13L
11L
10L
(B)
11a
13a
15
Cbb
11b
13b
VL
11L
13L

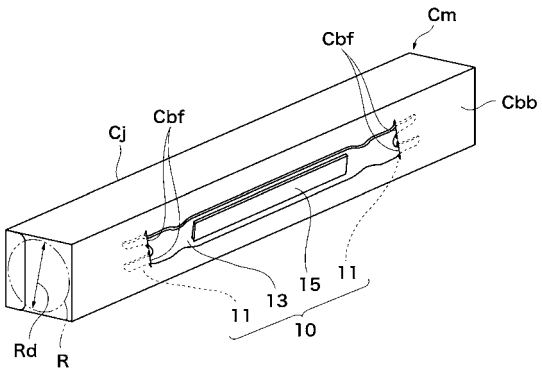
【図３】


(A)
R
11a
11a
10
11
(B)
Cbb
S
15
13a
C
13Wb
13b
13Wa

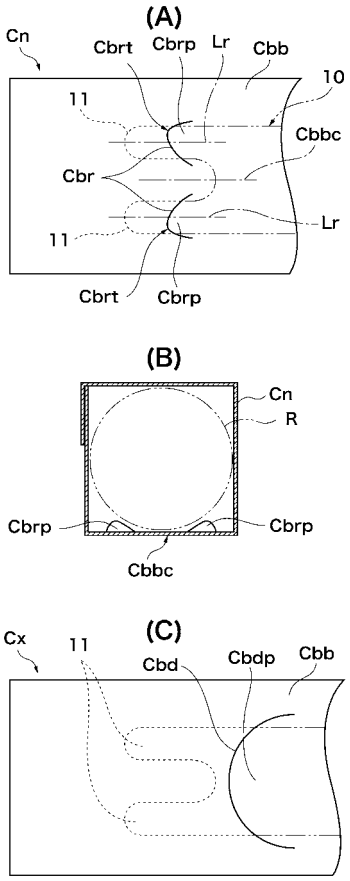
【図４】


10A
16
16f
16p
13a

【図５】


Cm
Cbf
Cbb
Cj
Cbf
15
11
13
11
10
Rd
R

【図６】


(A)
Cn
Cbrt
Cbrp
Lr
Cbb
10
11
Cbbc
Cbr
Lr
11
Cbrt
Cbrp
(B)
Cn
R
Cbrp
Cbrp
Cbbc
(C)
Cx
11
Cbd
Cbdp
Cbb

フロントページの続き

(72)発明者　大森　武雄
東京都中央区日本橋浜町三丁目３番２号　株式会社クレハ内

Ｆターム(参考) 3E060 AA03 AB03 BC04 CA02 CA12 CA33 DA30 EA08
3E062 AA01 AB13 AC05 CA13 LA01